

不動産学の魅力

明海大学 不動産学部

第91回



奥山 日菜子
不動産学部
4年

私は沖縄県出身で、生活する中で、住居に関する悩みや、沖縄特有の課題を感じてきた。これらに対して、不動産学の視点から解決策を提案したいと考え、卒業設計に取組んだ。

私は沖縄県出身で、生活する中で、住居に関する悩みや、沖縄特有の課題を感じてきた。これらに対して、「牧港補給地区」で、利便性と景観性を兼ね備えたエリアである。

不動産学で拓く沖縄の未来

性に加え自然環境への耐性も高める。間取りでは、両面ベランダで風通しの良い快適な居住空間を実現する。また、玄関を設けず曖昧な空間構成にすることで、内と外のつながりを日常生活の中で体感できる住まいを目指す。

をモチーフとした宿泊施設や、住民と来訪者が利用できるコミュニティスペースを設け、観光と居住が共存する新たな生活スタイルを提案する。

建築デザインのみならず運営・収益構造の両面からアプローチすることで、地域活性化、過疎化の改善、家賃負担の軽減、そして長期的かつ持続可能な住環境の実現を目指した。

まず、沖縄県が抱える主な課題として

運営・収益構造からもアプローチ

【教員コメント】

これまでの生活で感じてきた

基地返還跡地の利活用、少子高齢化、住宅不足、所得水準に対する家賃負担の大きさ、建物の老朽化を挙げ、外観には赤瓦屋根や花ブロックなど伝統的要素を取り入れ、デザイン計画する。

的なコミュニケーションを通じて、住環境の質と満足度の向上を図る。また、屋根へのソーラーパネル設置やセミオフグリッド住宅の導入によりエネルギーの自給自足を目指し、光熱費削減と環境負荷の低減を両立させると共に、売電などによる副次的収益も視野に入れる。

不動産の課題に対して、4年間の学びを結集して設計提案にまとめあげた力作。「内外の融合」が、自然換気や西日対策のバルコニーや可動シェードを取り入れながらプランニングや変化のあるファサードによく表現されている。運営面もリサーチに基づき設計案に応じるかたちで提示された。



模型（手前2棟がめーぬやー、奥3棟が住宅）

老朽化を挙げ、外観には赤瓦屋根や花ブロックなど伝統的要素を取り入れ、デザイン計画する。

的に、赤瓦屋根や花ブロックなど伝統的要素を取り入れ、デザイン計画する。

に基づき設計案に応じるかたちで提示された。

（前島彩子）